

子どもたちは選んでいる

～快適なビスケット活動をめざして～

ビスケットカンファレンス2026

所属機関

学校法人 上谷学園 幸幼稚園（兵庫県西宮市）

発表者

渡辺 富士子（上谷学園 幸幼稚園）



1

はじめに

2018年から、上谷学園幸幼稚園の年長2クラス・25台のタブレットで、ビジュアルプログラミング「ビスケット」の活動を続けてきました。現在はiPad・Androidタブレット・Windows 2-in-1の3種類のOSが混在する環境で、8年目を迎えています。

2

ねらい

誰もが安心して取り組める、快適なビスケット環境をつくること。子どもたち自身が、自分に合った操作方法を選べる環境を目指しました。

3

きっかけ

毎年、活動の初回には指操作がうまくいかず泣いてしまう子がいました。指滑り・力の入れすぎ・爪が画面に当たるなど原因は様々です。そこで導入したのが、子どもたちにとって「大人っぽくてカッコイイ」タッチペンでした。

4

わかったこと

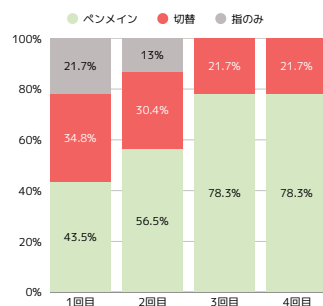
タッチペン導入後、誰に教えられるでもなく、子どもたちは操作の内容によってペンと指を自然に使い分け始めました。近くの子を観察しながら、描画はペンで、タップは指で——3～4回目には使い分けが定着し、最後まで指だけで操作していた子はゼロになりました。

5

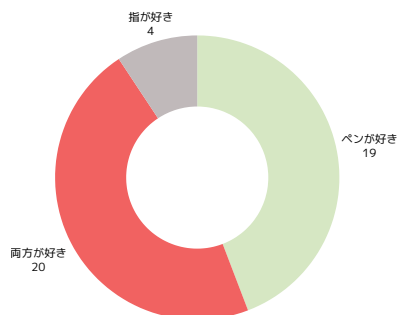
データで見る

積み上げ棒グラフでは導入1～4回目の使い方の変化を、円グラフでは導入4回目終了後の聞き取り調査結果（複数回答）を示しています。最も多かった回答は「ペンも指も両方好き」でした。（1クラス23名）

タッチペン導入1～4回目の使用傾向



子どもたちに聞いてみた！



6

まとめ

子どもたちは、もう選んでいる。大切なのは、その選択肢を用意し、選べる環境を整えること——それが、私たち大人の役割です。

活動の様子はこちら

ビスケット作品の動画はこちらから

